

第1期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果 国立大学法人富山大学

1 全体評価

富山大学は平成17年10月に3つの国立大学（旧富山大学、富山医科薬科大学、高岡短期大学）の統合を成し遂げ、特色ある国際水準の教育及び研究を行い、高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会に貢献するとともに、科学、芸術文化と人間社会の調和的発展に寄与することを基本理念とし、その実現に向け、旧3大学のそれぞれの特徴を活かしつつ、さらなる発展を目指し活動を展開している。

中期目標期間の業務実績の状況は、平成16～19年度までの評価では、すべての項目で中期目標の達成状況が「良好」又は「おおむね良好」であったが、平成20、21年度の状況を踏まえた結果、「自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標」の項目で中期目標の達成状況が「不十分」であるほか、それ以外の項目で中期目標の達成状況が「良好」又は「おおむね良好」である。業務実績のうち、主な特記事項は以下のとおりである。

教育については、理系大学院の再編による医学・薬学・理学・工学を融合した生命科学関連の領域横断的教育を推進し、多様な社会の要請に対応できる人材養成が図られている。また、全学部における少人数・対話型教育の実施、助言教員等制度の整備や学外からも閲覧可能な新学務情報システムの導入による学習支援の充実、ビジネスマナー講座開設や就職ガイダンス開催による就職支援等の取組が行われている。

研究については、東洋の伝統的薬学と西洋の医療の融合による研究を推進しているほか、富山県との包括的連携協定の締結や高岡市における文化財の修復等による研究成果を地域社会の活性化に活かしている。また、若手研究者の萌芽的研究を支援する「研究活性化経費」の設定等の取組を行っている。

社会連携については、伝統医薬（和漢薬）に関する研修会やセミナーを開催するとともに、富山県及び地域薬業界との連携により共同創薬研究を推進し、地域社会に貢献した成果を上げている。また、大学情報の積極的な発信及びインターネットを利用した遠隔授業の実施等の取組を行っている。

業務運営については、学長の下に設置されている「大学戦略室」を中心に教員と事務職員が一体となって理事をサポートする「理事室」や教育・研究組織の活性化に向けた検討を行う「組織再編検討委員会」等を通じて、機動的な大学運営を推進している。

財務内容については、リエゾンフェスティバルの開催、サテライト技術相談の展開、科学研究費補助金獲得増戦略ワーキンググループの設置、科研費採択増マニュアルの作成・配付等の施策等に取り組んだ結果、受託研究・共同研究、寄附金及び科学研究費補助金の獲得において具体的な成果が上がっている。

その他業務運営については、平成18年度から平成20年度までの厚生労働科学研究費補助金において、法人や大学、附属病院の管理運営責任者による不適切な経理処理が行われていることから、再発防止に向けた取組が求められる。

2 項目別評価

I. 教育研究等の質の向上の状況

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 教育の成果に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4項目）のうち、2項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、2項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「医学、薬学、理学、工学を融合した、生命科学の領域における研究者並びに高度専門職業人の育成を図る」について、理系大学院の再編により大学院生命融合科学教育部を設置し、医学・薬学・理学・工学を融合した生命科学関連の領域横断的教育を推進した結果、学生の領域横断的な研究能力・発表能力の向上が認められており、多様な社会の要請に対応できる人材養成が図られていることは、優れていると判断される。
- 中期計画「独創的な研究開発能力と高度な専門的職業能力を持つ創造的人材の育成

を図る」について、研究遂行能力や研究発表能力の向上を図るために成果のあった学生には修了時に顕彰を行うなど、各研究科及び教育部で様々な取組を実施した結果、理工学教育部・理工学研究科や医学薬学教育部・医学系研究科・薬学研究科において、学生による論文発表や学会発表が多数行われ、また、各研究科や教育部の修了生の多くが研究職や専門職に就いているなど、研究を通じた教育が実践されていることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「すべての部局が協力して教養教育に参加することなどにより、多様な分野を教育内容に反映させる」について、3大学統合のスケール・メリットを生かした科目として「立山マルチヴァース講義」を開講し、多様な分野を教養教育に反映させる試みが行われていることは、特色ある取組であると判断される。

② 教育内容等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(7項目)のうち、1項目が「非常に優れている」、1項目が「良好」、4項目が「おおむね良好」、1項目が「不十分」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「非常に優れている」、1項目が「良好」、5項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「少人数教育、対話型教育などを重視した授業形態や学習指導方法を取り入れる」について、全学部において少人数・対話型教育を実施し多くの学生が受講していること、「e-Learning 授業支援システム」を整備し、システムの利用が年々増加していることは、学生の自学自習力の向上が見られる点で、優れていると判断される。
- 中期計画「社会の現場で活用できる実践的な能力・技能を育むために、実社会における課題に関連した科目設定及び履修システムを導入する」について、地域社会との連携による実社会における課題に関連した授業科目を開講し、相当な数の学生が受講していることや、実用的な能力を認定するための語学検定試験を活用した単位認定を行っていることは、実践的な能力・技能を育む点で、優れていると判断される。
- 中期計画「補習授業など特定の分野・科目については適切な授業実施が可能となるよう、教材や授業方法の開発を行う」について、入学前教育、補習授業や情報処理教育のための教材開発・教育方法の改善において、入学前準備学習の研究を行い教材を改善するとともに、入学後の成績を調査し効果の検証をしていること等は、新入生の学力に応じた教育プログラムを実施し、学生の成績分布等により効果を検証し改善す

るという PDCA サイクルが実施されている点で、優れていると判断される。

(平成16～19年度の評価で指摘した「改善を要する点」の改善状況)

- 平成 16 ～ 19 年度の評価において、
中期計画「大学全体のアドミッション・ポリシーを確立し、それに応じて各学部
のアドミッション・ポリシーを見直す」について、大学全体のアドミッション・
ポリシーの確立がいまだなされていないことは、各学部の現在のアドミッション
・ポリシーが暫定的なものと考えられることから、改善することが望まれる
と指摘したところである。
平成 20、21 年度においては、大学全体のアドミッション・ポリシーを確立して、そ
れに応じて各学部において、アドミッション・ポリシーを見直していることから、当
該中期計画に照らして、改善されていると判断された。

(顕著な変化が認められる点)

- 中期計画「大学全体のアドミッション・ポリシーを確立し、それに応じて各学部の
アドミッション・ポリシーを見直す」について、平成 16 ～ 19 年度の評価においては、
各学部の現在のアドミッション・ポリシーが暫定的なものである点で、「不十分」であ
ったが、平成 20、21 年度の実施状況においては改善されており、「おおむね良好」と
なった。(「平成 16 ～ 19 年度評価で指摘した「改善を要する点」の改善状況」参照)

③ 教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育の実施体制等に関する目標」の
下に定められている具体的な目標 (6 項目) のうち、1 項目が「非常に
優れている」、3 項目が「良好」、1 項目が「おおむね良好」、1 項目が「不
十分」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。
平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「非常に優れ
ている」、3 項目が「良好」、2 項目が「おおむね良好」とし、これらの
結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施
体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「社会の要請の変化や研究の高度化・学際化に柔軟に対応できるように、
教育研究組織の在り方を検討する」について、3 大学 (富山大学・富山医科薬科大学
・高岡短期大学) の統合を契機として理系大学院の教育研究組織の在り方を検討した
結果、理系大学院の再編制により生命融合科学教育部を設置し、新たな学問領域の創
出や学術研究の高度化・活性化を図ったことは、優れていると判断される。
- 中期計画「大学院の 10 月入学制度の導入を更に推進する」について、留学生の大
学院入学の現状改善要望に応えた 10 月入学制度の導入により、アジア諸国からの留
学生の秋季入学が増加したことは、留学生のニーズに対応し、大学院の活性化につな
がる点で、優れていると判断される。

- 中期目標で「教育環境を整備する」としていることについて、「双方向遠隔授業システム」や「e-Learning 授業支援システム」、他大学との単位互換システムが整備され、これらを利用する授業科目の履修学生が増加していることは、3キャンパス（五福キャンパス・杉谷キャンパス・高岡キャンパス）や富山大学を越えた広い学習機会を学生に提供している点で、優れていると判断される。また、3大学統合に伴う課題を克服した図書館の環境整備が進められ、電子ジャーナルの利用者数が増加していることも、図書館の整備充実と利用促進がなされている点で、優れていると判断される。
- 中期計画「学生による授業評価を継続的に実施する」について、学生による授業評価アンケートや聞き取り調査を実施し教育効果の検証を行うとともに、その結果を教授会等を通じて教員にフィードバックするとともに、教育改善に活用する体制を整備していることは、教育の実施体制における PDCA サイクルを実現している点で、優れていると判断される。

（平成16～19年度の評価で指摘した「改善を要する点」の改善状況）

- 平成16～19年度の評価において、
 中期計画「教養教育の企画・立案・評価を担当し、実施の指揮にあたる組織の充実を図る」について、教養教育の充実のための検討が開始されているが、共通教育統合の基本方針の決定にとどまっておき、組織・体制の整備・充実が十分に進捗しているとはいえないことから、改善することが望まれる
 と指摘したところである。

平成20、21年度においては、教養教育改革室を設け、現行のカリキュラムと実施体制の検証に取り組み、また、3キャンパスの教員が相互に協力して教養教育科目を充実させる体制を整備していることから、当該中期計画に照らして、改善されていると判断された。

（顕著な変化が認められる点）

- 中期計画「教養教育の企画・立案・評価を担当し、実施の指揮にあたる組織の充実を図る」について、平成16～19年度の評価においては、組織・体制の整備・充実が十分に進捗しているとはいえない点で、「不十分」であったが、平成20、21年度の実施状況においては改善されており、「おおむね良好」となった。（「平成16～19年度評価で指摘した「改善を要する点」の改善状況」参照）

④ 学生への支援に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由） 平成16～19年度の評価結果は「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4項目）のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期目標で「学生への支援」としていることについて、学生の学習支援及び生活支援において、助言教員等制度の整備や、学外からも閲覧可能な新学務情報システム「ヘルン・システム」の導入、学生関係業務におけるワンストップサービスの実現、学生支援センター、トータルコミュニケーション支援室の設置、保護者との懇談会が開催されていること等は、学生個人のクラススケジュールの支援等、学生に対する丁寧な学習支援の実現・充実や、豊かなキャンパスライフのための学生相談・支援体制が整備されている点で、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「キャリア教育の充実を図り、就職指導體制を整備する」について、三つのキャンパスに学生が分かれていることに配慮し、各キャンパスでビジネスマナー講座を開設するとともに、五福キャンパスでは文系及び理系学部生向け、高岡キャンパスでは芸術文化学部生向けの就職ガイダンスをそれぞれ開催するなど、学生が利用しやすい支援が行われており、実際に全学部合計で就職ガイダンス等の参加者が平成20年度4,131名から平成21年度7,620名に増加した点で、特色ある取組であると判断される。(平成20、21年度の実施状況を踏まえ判断した点)
- 中期計画「実社会との連携（インターンシップ等）を拡充し、職業観・勤労観の育成を図る」について、平成20年度新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラムに「富大流人生設計支援プログラム」が採択され、インターンシップ参加学生が富山県内中学校の「14歳の挑戦」生徒指導ボランティアとして参加することにより、大学生は自らの成長を省みる機会を獲得し、中学生は数年先のキャリアターゲットとなる大学生と触れ合うことで将来像を獲得するという、キャリア教育の学びの循環の実現を進めている点で、特色ある取組であると判断される。(平成20、21年度の実施状況を踏まえ判断した点)

(顕著な変化が認められる点)

- 中期計画「キャリア教育の充実を図り、就職指導體制を整備する」について、平成16～19年度の評価においては、「おおむね良好」であったが、平成20、21年度の実施状況においては、「良好」となった。(「特色ある点」参照)

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標(2項目)のすべてが「良好」であることから判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標(2項目)のすべてが「良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(3項目)のうち、1項目が「非常に優れている」、2項目が「良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「非常に優れている」、2項目が「良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「人文、社会、自然科学研究の共同プロジェクト化、ネットワーク化を図り、先端的研究を推進する」について、学長裁量経費により異分野融合型の学内共同プロジェクトを優先的に支援していること、異分野研究者間の交流のための多様な企画が実施され、複数部局による共同プロジェクトの支援の拡大や、産学官連携による研究会や研究報告などの定期的な開催により、研究者交流が図られている。また、21世紀COEプログラム「東洋の知に立脚した個の医療の創生」における南京中医薬大学等との共同研究等、他大学や他研究機関との共同研究プロジェクトの実施等の実績が上がっていること等は、異分野間の融合による新たな先端的研究を推進している点で、優れていると判断される。
- 中期目標で「医薬理工学及び伝統医薬学領域を中心として、国際社会をリードする特色ある先端研究を行う」としていることについて、生命科学、情報科学、材料・ナノ科学、環境科学の分野で国際的にも評価された研究を推進し、21世紀COEプログラム「東洋の知に立脚した個の医療の創生」や科学技術振興機構(JST)戦略的創造研究推進事業(CREST)の脳の高次機能に関する研究の下での医薬理工及び人文社会系(生態人類学)を含んだ東洋の伝統医薬学と西洋の医療の融合による研究を推進していることは、優れていると判断される。
- 中期目標「地域や産業界との連携を深めながら、社会の要請に応え得る研究活動を展開し、研究成果を広く還元する」について、富山県との包括的連携協定の締結により、研究推進とその成果還元に関し県との連携と協力を図る体制の整備や、研究成果を発掘し産業界への技術移転を促進させ共同研究の増加を目指す、知的財産本部及び当該本部内への内部型技術移転機関(TLO)の設置により、共同研究と受託研究の件数と金額が年々増加している。さらに、リエゾンフェスティバル、イブニング技術交流サ

ロン、フォーラム富山「創薬」、とやま産学官交流会等の定期開催を通じて、富山大学の研究成果を県内の企業に紹介するとともに、伝統工芸の盛んな高岡市における工芸展等の開催や文化財の修復等により、研究成果を地域社会の活性化に活かしていることは、積極的な取組が着実に成果を上げている点で、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「次世代エネルギー（核融合、水素エネルギー）の研究開発を推進する」について、国内の大学で最大量（15,100 キュリー／年）のトリチウムの使用が可能な我が国で唯一の中核研究機関である水素同位体科学研究センターにおいて、次世代エネルギーに関わる核融合科学とトリチウムの安全取扱い技術及び閉じ込め技術の構築を達成するための研究を推進していることは、特色ある取組であると判断される。

② 研究実施体制等の整備に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成 16～19 年度の評価結果は「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（5 項目）のうち、3 項目が「良好」、2 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、3 項目が「良好」、2 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期目標で「研究環境の整備」としていることについて、学長裁量経費に戦略的経費を設定し、重点的に取り組む領域の体制整備や、学長裁量経費のうち「研究活性化経費」による若手研究者の萌芽的研究を支援したこと、研究用設備整備に関する設備整備マスタープランを策定し、その実現に向けて運営費交付金、外部資金及び概算要求を活用して資金獲得に努力し、学長裁量経費からも支援していることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「科学研究費補助金、自治体・企業・財団等からの研究奨励費などの外部資金の獲得を促進するための体制を整備する」について、科研費獲得増戦略ワーキンググループにおいて科学研究費補助金の獲得を増やすための方策を検討し、説明会の開催や相談窓口の設置に加え、非申請者にはペナルティを課すなどの取組を実施した結果、平成 18～20 年度分の申請件数が毎年増加したことは、特色ある取組であると判断される。

(Ⅲ) その他の目標

(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1項目）が「良好」であることから判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1項目）が「良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 社会との連携、国際交流等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（5項目）のうち、1項目が「非常に優れている」、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「非常に優れている」、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期目標「各種の医療機関や福祉施設と連携・協力して地域社会に貢献する」について、附属病院、地域の利用機関及び福祉施設との密接な連携協力体制が構築され、医療機関との連携の指標である紹介・逆紹介率が向上していることや、和漢医薬学総合研究所を中心に、伝統医薬（和漢薬）に関する研修会やセミナーの開催等オピニオンリーダーとしての役割を果たすとともに、漢方薬に関する疑問に答える「漢方 Q&A」をまとめ、ウェブサイトで公開し注目を集めていること、富山県、地域薬業界との連携による共同創薬研究が進み、富山オリジナルブランド医薬品を開発し、販売するまでに至ったこと等は、地域社会に貢献した成果が上がっている点で、優れていると判断される。
- 中期計画「講義概要や研究成果などのデータベース化及び公開を推進すると共に、インターネットを利用した遠隔学習環境を整備する」について、学術情報リポジトリ、電子シラバス等の整備により、大学情報を積極的に発信するとともに、インターネットを利用した遠隔授業を実施していることは、地域・社会への貢献へ向けた整備がされている点で、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「地域の高校と連携した公開授業や小中学生を対象とした講座を開設し、地域の教育機関との連携を図る」について、富山県教育委員会との連携により、富山大学の教員志望の学生を県内の小中学校に派遣し、放課後の児童生徒の個別指導や教育相談活動の補助を行うなど、学校のニーズに対応するとともに、学生の資質・能力の向上を図っていることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「交流協定大学に設置した富山大学ブランチを海外拠点として活用する」について、北京大学には富山大学の出身者が多いことを活用し、医薬系分野を中心に中国との交流を活発に行い、国際交流・貢献の拠点機関として先導的な役割を果たしていることは、特色ある取組であると判断される。

(2) 附属病院に関する目標

地域中核病院として専門性と総合性を持った質の高い医療人を育成し、良質の医療を提供できるように努力している。特に、卒後臨床研修センターを中心に研修プログラムの改善に努め、臨床研修医のための症例検討会を学生にも開放するなど積極的に取り組んでいる。研究では、医学部、薬学部、和漢医薬学総合研究所が一体となり、新規和漢薬の研究・開発に取り組んでいる。診療では、「地域がん診療連携拠点病院」としてのがん医療体制の充実を図り、また、チーム医療を推進している。

今後、引き続き、富山大学の特色である和漢薬を生かした臨床研究を推進するとともに、地域医療機関との連携や地域医療貢献を推進させるためのさらなる取組が期待される。

平成 16～21 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

(教育・研究面)

- 地域発信・統合型専門医養成プログラムにより、専門医養成支援センターを設置し、卒後 3 年目以降の医師の専門医教育をサポートする体制を整備している。
- 産学連携によるフォーラム富山「創薬」を積極的に活用し、滋養強壮保健薬に続く第二の富山ブランド医薬品の開発に取り組んでいるとともに、医学部と薬学部、和漢医薬学総合研究所と協力した新規漢方薬の開発等、高度先進医療にも積極的に取り組んでいる。

(診療面)

- 医師とコメディカルスタッフ間の連携を強化させ、病院感染対策チームによる感染対策、栄養サポートチームによる栄養管理評価、褥瘡予防対策チームによる褥瘡予防等、チーム医療を推進している。
- 地域の代表者、患者等及び病院長、副病院長で構成する「病院モニター懇談会」による意見を踏まえ、外来診察室の拡充、外来用トイレを洋式に全面改修、患者専用駐車場の確保に向けた用地確保、外来患者受付開始時刻の 30 分繰上げ等、さまざまな患者サービスの向上に努めている。

- 専任の GRM(ジェネラルリスクマネージャー)を中心とする院内横断的な実働部隊である医療安全管理室を設置し、医療安全推進体制の充実を図っている。

(運営面)

- 民間から採用した経営戦略部副部長(病院長補佐)が中心となり、病院広報・経営戦略等について積極的な改善を行っている。
- 年度当初に附属病院収支改善基本方針を定めて、病院職員へ周知徹底するとともに、病院経営戦略会議を毎月開催して検証を実施し、安定的な病院運営を行っている。
- 地域医療機関との緊密な連携の強化策として、院内外の医師が参加する地域連携研修会を開催し、大学病院が行っている高度な医療技術等の知的資源を、地域の中小病院医師及び開業医に公開して、県内医療機関における医療技術の向上を図っている。

(3) 附属学校に関する目標

富山大学は、附属学校園の機能充実を人間発達科学部にとっての重要な施策のひとつとし、新たに学部長補佐に附属学校園担当をおき、相互連携に向けて、附属学校園と学部との関係強化を再構築する試みに取り組んでいる。

教育実習校としては、学部での事前指導に出かけたり、夏季休業を利用した教材研究や指導法に関わる指導等を行い、実習の成果を高めるよう努めているほか、附属学校園の教育活動に多くの学生ボランティアや学習サポーターを参加させ、大学・学部と附属学校園との連携を図っている。

附属特別支援学校は、ジョブコーチ経験者による指導や、通常の作業学習に加えて春・秋に就業体験を行うなど、進路学習・進路指導の充実に取り組んでいる。

平成 16～21 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 教育実習において、学部の事前指導を7月に集中させ教育実習に対する学生の準備が行き届くように配慮したり、夏季休業を利用して教材研究や指導案作り等を重ね9月からの実習が順調に行えるようにするなど、事前指導の内容の充実を図り、実習の成果を高めるよう努めている。
- 環日本海諸国の大学附属学校(韓国、中国、ロシアの小学校)と社会科、音楽、図工などの教科を互いの学校で直接授業を行う授業交流を継続して実施しており、授業者の思いや学習指導案等を掲載した書籍「海を越えた心のキャッチボール—環日本海小学校授業交流への挑戦」を出版するなど、教育関係者だけでなく広く一般にも紹介している。
- 特別支援学校高等部の進路に関して、ジョブコーチ経験者を講師として、年間を通して進路に関わる授業を計画的に行い、進路学習の充実を図っている。また、通常の作業学習のほか春・秋に就業体験を行い、専門的立場からの生徒への指導実践を参観・研修することにより、作業学習の指導や進路指導の向上を図っている。

(IV) 定員超過の状況

- 平成 18 年度から平成 21 年度まで一貫して経済学研究科の定員超過率が 130 %を上回っていることから、今後、速やかに入学定員の見直しを含め定員超過の改善を行うことが求められる。

II. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

- ①運営体制の改善、②教育研究組織の見直し、③人事の適正化、
- ④事務等の効率化・合理化

平成 16～21 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 学長の下に設置されている「大学戦略室」を中心に教員と事務職員が一体となって理事をサポートする「理事室」や教育・研究組織の活性化に向けた検討を行う「組織再編検討委員会」等を通じて、機動的な大学運営を推進している。
- 3大学再編・統合後、3キャンパスがそれぞれ配分していた学長裁量経費を全学的な視点からの戦略的学内配分として充当することとし、学長裁量経費を配分した公募プロジェクトに関しては、実施報告書の提出を求めると同時に、必要に応じ報告会を開催するなど学長裁量経費の有効利用を図っている。
- 経営協議会における学外委員からの意見等は、役員会及び教育研究評議会等に報告し問題点等の整理を行うとともに、大学のウェブサイトに掲載し周知を図り、それらの意見を可能な範囲で大学運営に反映させており、医学部医学科及び看護学科の定員増や臨床研修医の増加等の改善が図られている。
- 「北陸発のふ・る・さ・と探訪」を共通テーマに、「北陸4大学連携まちなかセミナー」を実施するなど、北陸地区国立大学連合の枠組みの中で、教育研究等に関する大学間の連携・協力事業を推進している。
- 事務組織を再編成して部・グループ・チーム制を導入し、意思決定の迅速化、組織のフラット化を図るとともに、各グループに共通する事務を一元的に処理する組織として職員支援センターを設置し、定年退職した再雇用職員を活用するなど、事務の効率化及び合理化を推進している。
- 男女共同参画推進室を設置し、子どもが小学校就学の始期に達するまで多様な勤務形態から選択できる「育児短時間勤務制度」や、夏季に小学生の子どもを持つ教職員を対象に「夏季学童保育」を実施するなど、仕事と育児等の両立を支援し、女性教職員が活躍できる環境を整備している。
- 厚生労働科学研究費補助金における不適切な経理処理が行われていたことについて、平成 21 年 5 月から平成 22 年 10 月まで学内調査委員会を設けて調査している。適切な大学運営や社会への説明責任の観点からは、調査状況に応じ経営協議会へ報告することや情報提供を行うなど、より適切な法人のガバナンスを構築していくことが期待される。

【評定】 中期目標の達成状況が**良好**である

(理由) 中期計画の記載 21 事項すべてが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(参考)

平成 16～19 年度の評価は以下のとおりであった。

【評定】 中期目標の達成状況が良好である

(理由) 中期計画の記載 21 事項すべてが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

- (①外部研究資金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
③資産の運用管理の改善)

平成 16～21 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 企業訪問、リエゾンフェスティバルの開催、サテライト技術相談等各種の連携推進事業を展開した結果、受託研究、共同研究及び寄附金による外部資金は、平成 21 年度には 15 億 4,669 万円（対平成 18 年度比 3 億 4,425 万円増）となっている。
- 科学研究費補助金獲得増戦略ワーキンググループの設置、説明会の開催、科研費採択増マニュアルの作成・配付、不申請者に対する次年度の研究費の一部保留等の施策等に取り組んだ結果、平成 21 年度には、申請件数は 899 件（対平成 18 年度比 135 件増）、採択金額は 7 億 6,335 万円（対平成 18 年度比 1 億 6,406 万円増）となっている。
- 3 大学統合を機に、複数キャンパスに重複する業務委託契約の一本化、省エネルギー機器の導入、附属病院中央機械室冷熱源設備における「Energy Service Company」事業の実施等の取組を行い、管理的経費の抑制に努めている。
- 中期計画における総人件費改革を踏まえた人件費削減目標の達成に向けて、着実に人件費削減が行われている。今後とも、中期目標・中期計画の達成に向け、教育研究の質の確保に配慮しつつ、人件費削減の取組を行うことが期待される。

【評定】 中期目標の達成状況が良好である

(理由) 中期計画の記載 11 事項すべてが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(参考)

平成 16～19 年度の評価は以下のとおりであった。

【評定】 中期目標の達成状況が良好である

(理由) 中期計画の記載 11 事項すべてが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

- (①評価の充実、②情報公開等の推進)

平成 16～21 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 高齢者や障がい者へ配慮したウェブサイト音声読み上げブラウザへの対応やウェブサイトメニューバーに「キャリア・就職支援」及び「国際交流・留学」の項目を追加するなど、ウェブアクセシビリティの向上に努めている。

平成 16～21 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

(法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる事項)

- 「教育研究、社会貢献、組織運営を全学的に点検し、客観的に積極的に受けるために自己点検評価に関する基本方針、実施手順等のシステムを整備する。」(実績報告書44頁・中期計画【176】)について、体制整備を行い全学的な点検評価を実施するほか、教員情報総合データベース(仮称)のシステム的设计に向けて仕様書等の策定に取り組んでいるものの、自己評価システムの確立はまだ途上であり、整備されているとは言えないこと、教員情報総合データベース(仮称)を構築するまでには至っていないことから、中期計画を十分には実施していないものと認められる。

【評定】 中期目標の達成状況が不十分である

(理由) 中期計画の記載 3 事項中 2 事項が「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるが、1 事項について「中期計画を十分に実施していない」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(参考)

平成 16～19 年度の評価は以下のとおりであった。

【評定】 中期目標の達成状況が良好である

(理由) 中期計画の記載 3 事項すべてが「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

- ①施設設備の整備・活用等、②安全管理、
③環境配慮、④北陸地区の国立大学連合

平成 16～21 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 施設の点検を行い、快適な学内環境維持のため、キャンパス修繕マップを作成し、計画的な施設整備に努めている。
- 省エネルギー機器の導入や附属病院中央機械室冷熱源設備の改修によるエネルギー削減を行うなど、省エネルギー対策や温室効果ガス排出削減等の環境保全対策に取り

組んでいる。

- 独自に開発したサーバソフトウェアの富山大学薬品管理支援システム「TULIP」を学内の基幹システムとして運用しているとともに、オープンソースソフトウェアとして全国の教育・研究機関に無償で提供し、他大学等の化学物質管理体制の構築にも協力している。

平成 16～21 年度の実績のうち、下記の事項に課題がある。

- 平成 18 年度から平成 20 年度までの厚生労働科学研究費補助金において、法人や大学、附属病院の管理運営責任者による不適切な経理処理が行われていることから、教職員のコンプライアンス遵守、経費執行上の規則の周知徹底、検収・検査体制の強化等の再発防止に向けた取組が求められる。

【評定】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(理由) 中期計画の記載 10 事項すべてが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるが、厚生労働科学研究費補助金における不適切な経理処理が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

(参考)

平成 16～19 年度の評価は以下のとおりであった。

【評定】 中期目標の達成状況が良好である

(理由) 中期計画の記載 10 事項すべてが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

